

「キャンドルのつどい研修」プログラム

国立江田島青少年交流の家

1 活動内容

燃える炎を見つめながらしみじみと語り合い、歌い、踊り、ゲームを楽しみながら、華やかで感動に満ちたときを過ごす。

2 活動のねらい

皆で炎を囲み、楽しみ、親睦を深める。
協調性を高める。
今日を反省し、明日への活力をつくる。

3 対象者

小学校5年生以上
ただし、保護者又は責任の持てる引率者と組んで活動する場合はこの限りではない。

4 研修人数及び研修場所

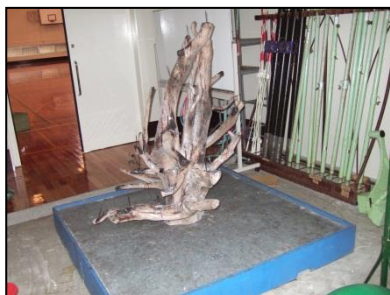
- (1) 体育館：最大200人
 - (2) 講堂：最大150人
 - (3) 武道館：最大100人
- ※いずれの場所も飲食は禁止。水分補給は可。

5 実施時期、研修時間

- (1) 実施時期 通年
- (2) 研修時間 19時00分～21時00分
※8-(3)の作業を19時00分までにしておく。
※後片付けは21時00分以降にしてもよい。

6 準備物

- (1) 個人：動きやすい服装、体育館シューズ（講堂の場合は不要）、飲み物（必要な場合）
スタンプに使用するもの
- (2) 引率者：携帯電話
- (3) 団体：マッチ（チャッカマンなど）、小ろうそく（ボランティア棟1F売店 イシダスポーツでも販売 1箱約80本250円）
武道館で実施の場合は懐中電灯（移動用）
- (4) 交流の家：教材室・・・コードリール、アンプ、ワイヤレスマイク、火の神衣装、バケツ、ろう削り、大ろうそく
各実施場所・・・大燭台、火の神用燭台、シート、放送設備（武道館は無し）
※詳しい場所は5ページ参照



大燭台



火の神用燭台



ロウ削り

7 指導・安全管理

(1) 指導者の配置・人数・役割分担

研修は、「キャンドルのつどい研修」プログラムをもとに、団体がキャンドルのつどいの指導・安全管理等を行う。

(2) 引率者の配置・人数・役割分担

活動団体で次の役割を持たせる。(小規模の団体は担当を兼ねられる)

- ① 総括責任者 (全体の総括, 緊急時の連絡担当)・・・1名
- ② 指導担当者 (指導, 用具の準備, 安全管理)・・・1名以上
- ③ 監視担当者 (火の管理, 安全管理)・・・1名以上
- ④ 救護担当者 (健康観察・応急処置)・・・1名以上

(3) 事故発生時の措置

緊急の場合は, 総括責任者は携帯電話で交流の家に連絡を行う。

8 展開

(1) 「物品利用希望書」の提出

必要事項を記入し, 総括責任者が当日までに交流の家へ提出する。

(2) 実施前

借用物品受け渡し時に職員と総括責任者の打ち合わせ

- ① 研修生の健康状態に十分配慮し, 体調不良者はキャンドルのつどいをさせないことを説明する。団体から提出された「物品利用希望書」等の変更の有無を聴取し, 変更がある場合は修正する。
- ② 「キャンドルのつどい研修」プログラムを基に, 研修の実施方法, 安全管理等を説明する。
- ③ 緊急時の連絡方法として, 総括責任者の携帯番号を聴取する。
- ④ 指導担当者は, 事務室から必要に応じてコードリール, アンプ, ワイヤレスマイク, 火の神衣装, バケツを受け取る。
- ⑤ 実施場所のコンセント等の確認をする。
- ⑥ **実施場所でシート敷き**, 大燭台の設置を行う。(4ページ参照, 大燭台は重いので注意。)
- ⑦ 大燭台に大ロウソクを立てる。
- ⑧ 火の神用燭台に大ロウソクを立てる。

(3) 事前指導

集合場所: 体育館, 講堂で実施の場合・・・各実施場所
武道館で実施の場合・・・つどいの広場(ピロティ)

集合時刻: 19:00

(指導担当者)

- ① グループ毎に整列させる。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。

(4) 指導担当者は目的, 注意事項を説明する。

〈注意事項〉

- ① けが、体調が悪くなったら、引率者に連絡する。
- ② できるだけシートや床にロウをたらしさない。
※講堂の床はじゅうたんなので特に注意する。
- ③ 武道館への移動は、暗いので足元に気をつける。(溝に注意)

(5) キャンドルのつどい

(例)

第1部

- ① 入場
- ② 歌「遠き山に日は落ちて」
- ③ 火の神入場→火の神の言葉→点火
- ④ 歌「四季の歌」
- ⑤ 営火長のことば(火にまつわる話)

第2部

歌、スタンプ、ゲームなどで盛り上がる

第3部

- ① 歌「一日の終わり」
- ② 沈黙(黙って火を見つめる)
- ③ 誓いの言葉(各班代表、各クラス代表など)
- ④ 営火長終わりの言葉
- ⑤ 歌「今日の日はさようなら」
- ⑥ 退場

※監視担当者は大燭台のロウソクの火が消えたらつける。

(6) 事後指導

(指導担当者)

- ① 救護担当者に健康観察をさせる。
- ② まとめをし、解散する。
- ③ キャンドルのつどいの研修終了を交流の家へ報告するとともに、借用物品の返却をする。

(7) 片付け

監視担当者は次の方法で片づけを行う。

- ① ロウソクを消火した後は、水をためたバケツの中に入れ、完全に消火する。
(完全に消火したら水を切り、小ロウソクは持ち帰る。大ロウソクは所定の場所へ片付ける。)
- ② 床及びシートに落ちたロウをロウ削りですとる。
- ③ シート、大燭台、火の神用燭台、ロウ削り、大ロウソクを所定の場所へ片付ける。

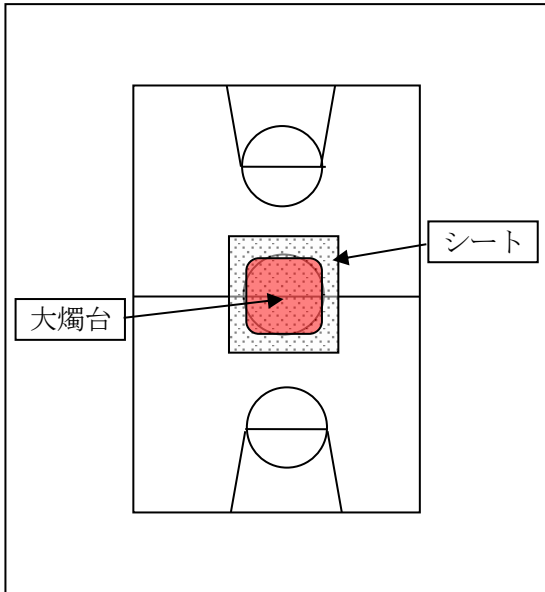
(8) 連絡先

一般電話番号

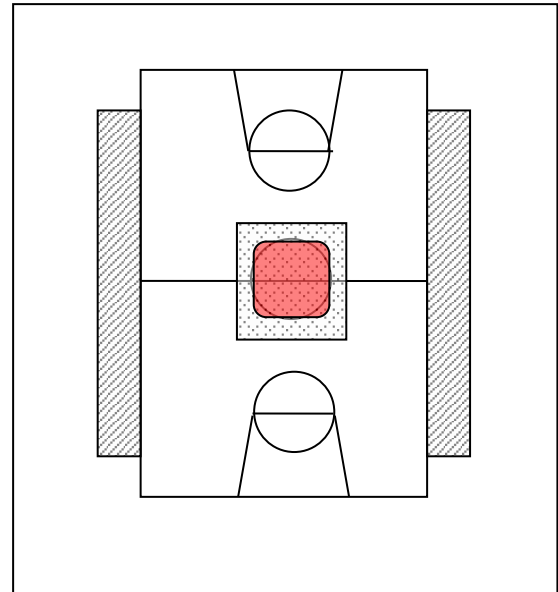
国立江田島青少年交流の家 Tel 0823-42-0663

シートの敷き方

体育館の場合

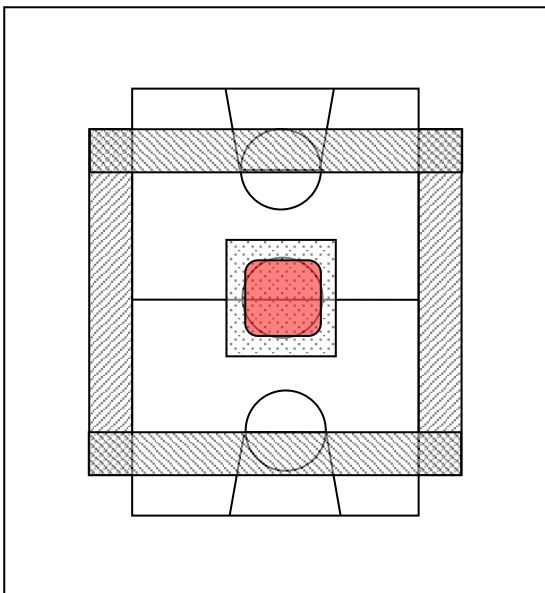


- ① バasketコートセンターサークル上に中央用シートを敷き、その上に大燭台を置く。

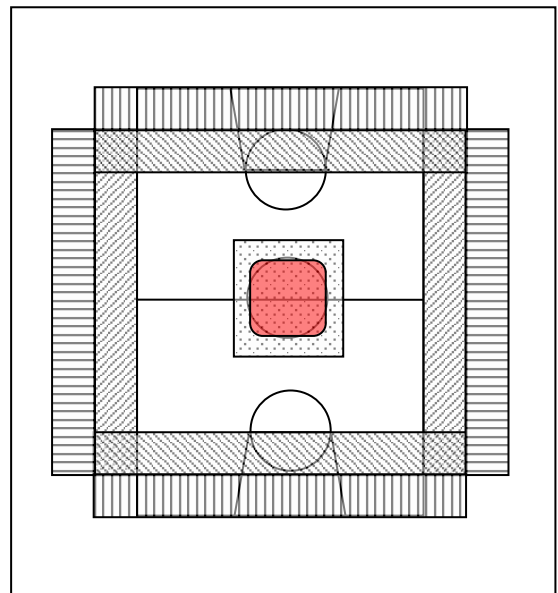


- ② バasketコートのサイドラインにシートの内側を合わせて敷く。

これは基本の形ですので、人数に応じて敷き方を変えることも可能です。
火の神が歩く経路や研修生が立つ場所には必ずシートを敷いてください。



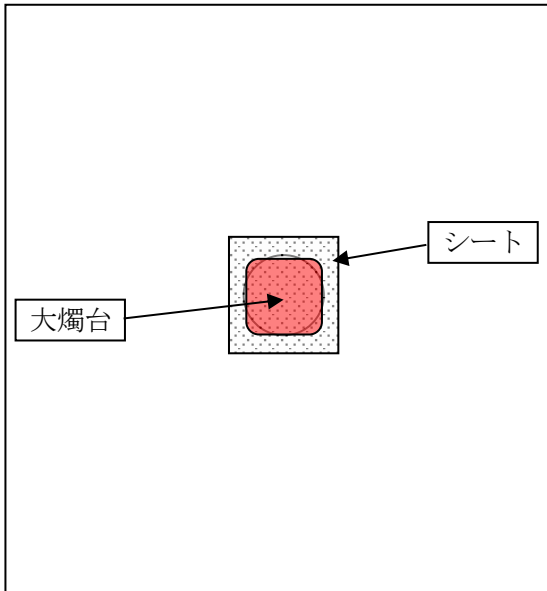
- ③ シートの角を合わせ、②と直角にシートを敷く。



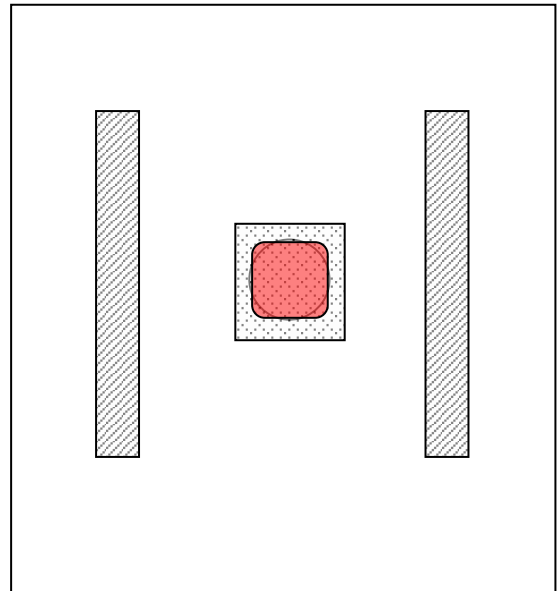
- ④ ②③の外側にシートを敷く

シートの敷き方

講堂・武道館の場合

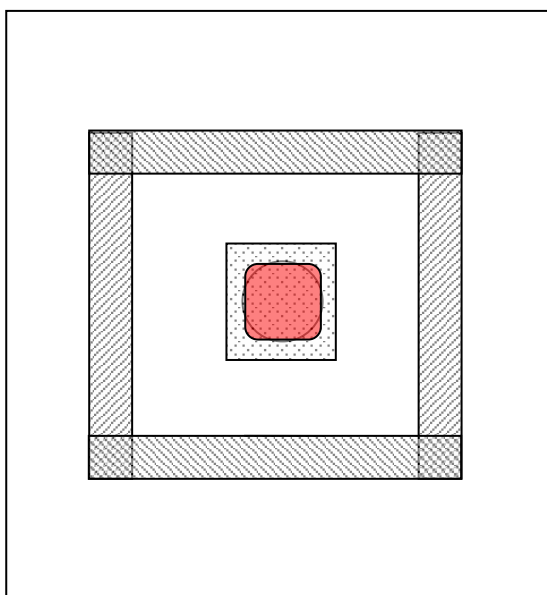


① 会場の中央にシートを敷き、その上に大燭台を置く。

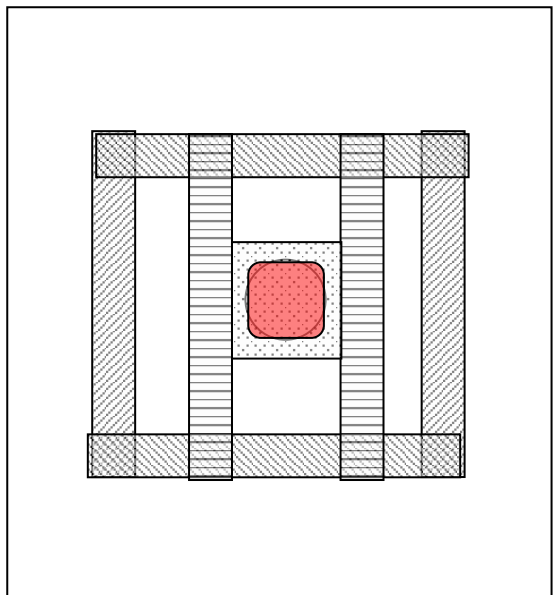


② 研修生が立つ位置にシートを敷いていく。

※講堂、武道館には目安となるラインがないため、目分量で敷く（内側のシートの端が重なるように）



③ シートの角を合わせ、②と直角にシートを敷く。



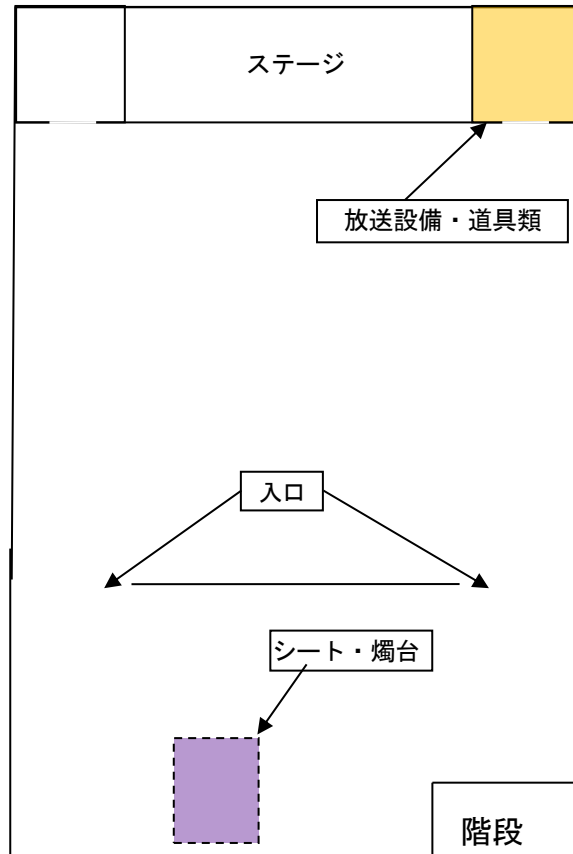
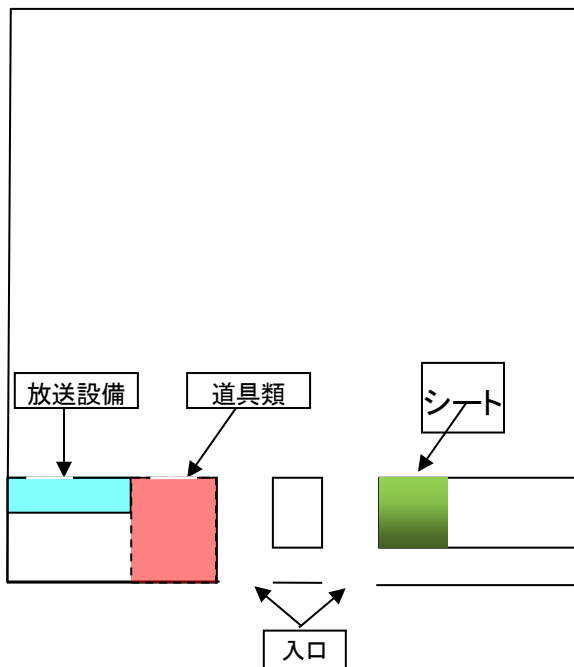
④ 火の神が歩く経路にもシートを敷く。

道具・放送設備の場所

体育館

講堂

道具類・シート



出入口

武道館

